

一 是朽故宅 属于一人の事

仰せに云はく、此の文をば文句の五に云はく「失火の由を明かす」と。此の宅は三界の火宅なり。火といふは煩惱なり。此の火と宅とをば属于一人とて釈迦一仏の御利益なり。弥陀・薬師・大日等の諸仏の救護に非ず。教主釈尊一仏の御化導なり。唯我一人能為救護とは是なり。此の属于一人の経文を重ねて五の卷提婆品に説いて云はく「三千大千世界を觀るに、乃至芥子の如き許りも、是菩薩にして身命を捨てたまふ処に非ざること有ること無し。衆生の為の故なり」と。妙樂大師此の属于一人の経文を釈する時、記の五に云はく「咸く長者に歸す。一色一香一切皆然なり」と判ぜり。既に咸歸長者と釈して、法界に有りとし在る一切衆生の受くる苦惱をば、釈尊一人の長者に歸すと釈せり。一色一香一切皆然なりとは、法界の千草万木飛華落葉の体たらく、是皆無常遷滅の質を見て仏道に歸すも属于一人の利益なり。此の利益の本源は南無妙法蓮華經の内証に引入せしめんが為なり。所詮末法に入りて属于一人の利益は日蓮が身に当たりたり。日本国の一切衆生の受くる苦は悉く日蓮一人が属于一人なり。教主釈尊は唯我一人能為救護、日蓮は一人能為救護云云。文句の五に云はく「是朽故宅属于一人より下第二に一偈有り、失火の由を明かす。三界は是仏の化應の処、発心より已来誓って度脱せんと願ふ。故に属于一人と云ふ」と。此の釈に発心已来誓願度脱の文、豈日蓮が身に非ずや。